

プログラム

第1日目 10月4日(金) 第1会場(大会議室)

13:00 ~ 13:05 開会の挨拶

当番世話人：並川 健二郎（国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科）

13:10 ~ 14:40 主題シンポジウム1 臓器横断（各領域における SNNS の現状）

オーガナイザー 竹内 裕也（浜松医科大学外科学第二講座）

企画・趣旨ねらい（概要）

四半世紀を過ぎた SNNS は、ICG 蛍光観察やロボット支援手術のような新規技術の応用により、固形がん手術の各領域で大きな発展を遂げた。一方で、日常臨床として広く普及した領域と臨床研究の域をいまだ超えない領域に二分化されつつある。本セッションでは各領域における SNNS の現状と課題を共有することで、SNNS の真価を問い、さらなる発展につなげたい。

座長：神野 浩光（帝京大学 乳腺外科）
竹内 裕也（浜松医科大学外科学第二講座）

T1-1 各領域における SNNS の現状：乳癌

慶應義塾大学医学部 外科学（一般・消化器）
関 朋子

T1-2 各領域における SNNS の現状：胃癌

金沢医科大学 一般・消化器外科学
木南 伸一

T1-3 婦人科腫瘍における SNNS の現状

国立病院機構仙台医療センター
新倉 仁

T1-4 頭頸部癌

朝日大学病院 頭頸部外科・耳鼻咽喉科
松塚 崇

T1-5 各領域における SNNS の現状：皮膚腫瘍（メラノーマを中心に）

国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科
並川 健二郎

オーガナイザー 木南 伸一（金沢医科大学 一般・消化器外科学）

企画・趣旨ねらい（概要）

消化器癌にとってリンパ節転移は重要な予後因子である。しかしながら、消化器癌のセンチネルリンパ節生検は胃癌を除いては立ち遅れており、最も進んでいる胃癌センチネルリンパ節生検でも、長期予後のデータがまだ出揃っていない。一方で、ICG 蛍光を検出可能な腹腔鏡システムの登場により、ICG 蛍光法による消化器癌のリンパ流の研究がリバイバルブームとなった。主に東アジアから、胃癌手術におけるリンパ流観察とリンパ節郭清の精度、さらに予後の検討まで、多数の報告がなされるようになってきている。本セッションでは、消化器癌に関し、センチネルリンパ節生検はもちろんのこと、リンパ流観察まで対象を広げ、ICG 蛍光法によるセンチネルリンパ節生検・リンパ流観察の最新の知見を披露いただき、消化器癌におけるセンチネルリンパ節生検とリンパ流観察の関係性、その有用性を探りたい。

座長：木南 伸一（金沢医科大学 一般・消化器外科学）
渡邊 純（関西医科大学 下部消化管外科学講座）

T2-1 正確なセンチネルリンパ節同定のための術中 ICG（インドシアニングリーン）投与至適濃度設定に関する研究

¹⁾ 東京慈恵会医科大学附属柏病院 外科、²⁾ 東京慈恵会医科大学附属病院 消化管外科
高橋 直人¹⁾、湯田 匡美²⁾、福田 みづき¹⁾、石川 佳孝¹⁾、藤崎 宗春²⁾、
戸谷 直樹¹⁾、矢野 文章²⁾、衛藤 謙²⁾

T2-2 センチネルリンパ節生検個別化胃癌手術の機能的予後

¹⁾ 浜松医科大学 周術期等生活機能支援学講座、²⁾ 浜松医科大学 外科学第二講座
平松 良浩^{1,2)}、境井 勇氣²⁾、羽田 綾馬²⁾、曾根田 亘²⁾、村上 智洋²⁾、坊岡 英祐²⁾、
松本 知拓²⁾、菊池 寛利²⁾、竹内 裕也²⁾

T2-3 結腸癌における ICG 蛍光ナビゲーションを用いたリンパ節郭清

札幌医科大学 消化器・総合、乳腺・内分泌外科
石井 雅之、奥谷 浩一、秋月 恵美、野田 愛、三代 雅明、三浦 亮、市原 もも子、
豊田 真帆、岡本 行平、竹政 伊知朗

T2-4 結腸癌・直腸癌のリンパ流とその破格

¹⁾ 関西医科大学下部消化管外科学講座、²⁾ 横浜市立大学消化器・腫瘍外科、
³⁾ 横浜市立大学附属市民総合医療センター消化器病センター外科
渡邊 純^{1,2)}、諏訪 雄亮³⁾、上原 広樹¹⁾、井 翔一郎¹⁾、山田 典和¹⁾、小林 壽範¹⁾

座長：愛甲 孝（鹿児島大学 / 医療法人青雲会病院）

M1 乳癌 SNNS における多施設共同研究

杏林大学医学部乳腺外科
井本 滋

M2

早期胃癌に対するセンチネルリンパ節を指標としたリンパ節転移診断と個別化手術の有用性に関する多施設共同試験

¹⁾ 浜松医科大学外科学第二講座、²⁾ 慶應義塾大学外科
竹内 裕也¹⁾、福田 和正²⁾、北川 雄光²⁾

M3

多施設共同研究進捗状況「頭頸部癌」

朝日大学病院 頭頸部外科・耳鼻咽喉科
松塚 崇

第1日目 10月4日(金) 第2会場(セミナールームB)

14:00 ~ 14:40 一般演題1 皮膚科1

座長：中野 英司(国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科)
為政 大幾(医誠会国際総合病院皮膚科)

O1-1 肩甲骨下周囲にセンチネルリンパ節が同定された背部悪性黒色腫の2例

京都府立医科大学

小西 悠介、丸山 彩乃、浅井 純

O1-2 当初センチネルリンパ節陰性の乳癌と診断されたstage IIIの右乳頭部悪性黒色腫の1例

国立がん研究センター 東病院 皮膚腫瘍科

陣内 駿一、小坂 祐子、盛岡 拓哉、高橋 聡

O1-3 右上腕にinterval nodeを認めた1例

国立がん研究センター中央病院、皮膚腫瘍科

福田 朱美、緒方 大、松本 薫郎、鶴田 成二、中山 裕一、中野 英司、
並川 健二郎、山崎 直也

O1-4 左右後頭センチネルリンパ節に転移を認めた頭頂部正中皮膚原発悪性黒色腫の1例

国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科

中山 裕一、並川 健二郎、和田 昇悟、松本 薫郎、福田 朱美、鶴田 成二、
中野 英司、緒方 大、山崎 直也

O1-5 second tier nodeが後発性に臨床的転移をきたしたメラノーマの1例

静岡がんセンター皮膚科

堤田 新、堀崎 健、小俣 渡、吉川 周佐

15:10 ~ 15:50 一般演題2 皮膚科2・頭頸部外科

座長：堤田 新(静岡がんセンター皮膚科)
吉本 世一(国立がん研究センター中央病院頭頸部外科)

O2-1 後頭リンパ節転移に対してposterolateral neck dissectionを施行した頭部再発皮膚有棘細胞癌の治療経験

北海道大学 大学院医学研究院 形成外科学教室

前田 拓、北條 正洋、石川 耕資、山本 有平

O2-2 免疫細胞の活性化を通じたセンチネルリンパ節部位へのリンパ節移植の抗腫瘍免疫についての検証

北海道大学 大学院医学研究院 形成外科学教室

前田 拓、石川 耕資、北條 正洋、舟山 恵美、山本 有平

O2-3

新規蛍光検出システム“Lumifinder”を用いた顔面センチネルリンパ節生検の有用性

北海道大学 大学院医学研究院 形成外科学教室

北條 正洋、前田 拓、石川 耕資、山本 有平

O2-4

眼瞼型脂腺癌リンパ節転移の検討

国立がん研究センター中央病院頭頸部外科

渡邊 嶺、小村 豪、加藤 光彦、伊藤 達哉、田中 瑛久、林 崇明、江口 紘太郎、
坂井 梓、坂井 利彦、伏見 千宙、吉本 世一

O2-5

舌癌における舌骨傍リンパ節転移とその郭清方法について

国立がん研究センター中央病院 頭頸部外科

伏見 千宙、小村 豪、加藤 光彦、伊藤 達哉、田中 瑛久、渡邊 嶺、林 崇明、
江口 紘太郎、坂井 梓、坂井 利彦、吉本 世一

第2日目 10月5日(土) 第1会場(大会議室)

9:00～10:30 主題シンポジウム3 保険診療下におけるセンチネルリンパ節生検実施の現状と課題

オーガナイザー 山上 亘(慶應義塾大学医学部産婦人科学教室)

企画・趣旨ねらい(概要)

婦人科がんに対するセンチネルリンパ節(SN)生検は長らくトレーサーが薬事承認されず、そのためにSN生検の技術料も保険収載に至らず、臨床研究で行われてきた。令和5年3月にRIトレーサーであるテクネフチン酸キット®(PDRファーマ)の適応症が子宮頸癌、子宮体癌、外陰癌に拡大され、また、リンパ節転移の検出法であるOne Step Nucleic acid Amplification(OSNA)法が令和4年10月に適応拡大となり、これらが婦人科領域のSN生検の保険収載に向けた呼び水となって、令和6年診療報酬改定にて外陰癌に対するSN生検加算が保険収載された。今後、婦人科がんに対するSN生検のさらなる普及が期待されている。

日本婦人科腫瘍学会ではそのような流れを受けてSN生検普及WGを組織し、婦人科がんを対象としたSN生検/ナビゲーション手術に関する指針の制定やクオリティコントロールのためのレジストリの構築など、安全かつ質の高いSNナビゲーション手術の普及に向けての取り組みを行っている。本セッションでは、それら取り組みについて紹介し、婦人科領域でのさらなるSNの普及に向けての方策についてディスカッションしたい。

座長:新倉 仁(国立病院機構仙台医療センター)
山上 亘(慶應義塾大学医学部産婦人科学教室)

T3-1 SNNSの実装化により導かれる子宮頸癌治療の未来

¹⁾宮城県立がんセンター、²⁾東北大学病院、³⁾仙台医療センター

永井 智之¹⁾、橋本 栄文¹⁾、橋本 千明¹⁾、藤田 信弘¹⁾、海法 道子¹⁾、重田 昌吾²⁾、
島田 宗昭²⁾、新倉 仁³⁾、山田 秀和¹⁾

T3-2 子宮体癌におけるセンチネルリンパ節生検の現状と課題

九州大学病院 産科婦人科

矢幡 秀昭、蜂須賀 一寿、前之原 章司、小玉 敬亮、八木 裕史、安永 昌史、
小野山 一郎、浅野間 和夫、加藤 聖子

T3-3 外陰癌におけるセンチネルリンパ節生検の現状と課題

京都大学大学院医学研究科医学部産婦人科学産科学

山口 建

T3-4 OSNA法TM・病理診断の現状と課題

鹿児島大学 産科婦人科

戸上 真一、古園 希、永田 真子、小林 裕介、福田 美香、水野 美香、
築詰 伸太郎、小林 裕明

オーガナイザー 吉本 世一 (国立がん研究センター中央病院 頭頸部外科)

企画・趣旨ねらい (概要)

臨床的に頸部リンパ節転移のない早期口腔がんにおいて23-43%に潜在的リンパ節転移がある。このような潜在的リンパ節転移に対して郭清せずに経過観察をする watchful waiting とするか予防的頸部郭清を行うかについては長らく議論されていた。2015年のNEJM誌においてD'Cruzらが単施設の大規模な無作為化比較試験の結果を発表し、予防的頸部郭清術の優位性を示して以来、予防的頸部郭清術を行うことが標準治療と考えられてきた。しかし頸部郭清術を行うことで頸部の疼痛、線維化による絞扼感、副神経麻痺などがみられることがあり、術後のQOLを損なうことが懸念されるため、低侵襲治療としてセンチネルリンパ節生検(SNB)のN0口腔癌への応用が期待されていた。2020年のJCO誌に掲載されたHasegawaらによる本邦における多施設共同研究において、SNB群が予防的郭清とのOSの比較において非劣性が示され、今後早期口腔癌におけるSNBが保険収載されることが期待されている。本セッションでは頭頸部扁平上皮癌におけるSNBの現状と今後の保険収載へ向けての動きを口腔癌について川北先生に、進行癌に対しての展望について平川先生に、口腔外科の立場から黒嶋先生に、舌癌後発転移の予後予測について蝦原先生に、咽喉頭癌における展望を関先生にお話しいただく。

座長：松塚 崇 (朝日大学病院 頭頸部外科・耳鼻咽喉科)
小村 豪 (国立がん研究センター中央病院頭頸部外科)

T4-1 口腔癌センチネルリンパ節生検における準備・その方法について

¹⁾ 名古屋市立大学大学院耳鼻咽喉・頭頸部外科、²⁾ 朝日大学病院頭頸部外科・耳鼻咽喉科、
³⁾ 防衛医科大学校耳鼻咽喉学講座、⁴⁾ 琉球大学医学部耳鼻咽喉科

川北 大介¹⁾、松塚 崇²⁾、荒木 幸仁³⁾、平川 仁⁴⁾、鈴木 幹男⁴⁾、長谷川 泰久²⁾

T4-2 進行口腔癌に対するSNナビゲーション選択的頸部郭清術の検討

琉球大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科

平川 仁

T4-3 口腔癌におけるセンチネルリンパ節の検討

¹⁾ 東京医科歯科大学顎口腔腫瘍外科学分野、²⁾ 山梨県立中央病院口腔外科

黒嶋 雄志¹⁾、大迫 利光^{1,2)}、原田 浩之¹⁾

T4-4 早期舌癌における潜在的リンパ節予測 ～新規予後因子：簇出について

¹⁾ 埼玉医科大学国際医療センター頭頸部腫瘍科、²⁾ 埼玉医科大学病理学中央病理診断科

蝦原 康宏¹⁾、浜田 芽衣²⁾

T4-5 咽喉頭癌に対するセンチネルリンパ節生検の現状と展望

防衛医科大学校病院耳鼻咽喉科学講座

関 雅彦、宇野 光祐、鈴木 洋、塩谷 彰浩、荒木 幸仁

オーガナイザー 並川 健二郎 (国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科)

企画・趣旨ねらい (概要)

近年のセンチネルリンパ節生検 (SLNB) の普及は、Donald L. Morton 先生がメラノーマ (悪性黒色腫) を対象に sentinel node concept を提唱したことが重要な契機となっている。その後、メラノーマを取り巻く環境は大きく変化し、抗 PD-1 抗体をはじめとした免疫チェックポイント阻害薬や BRAF/MEK 阻害薬が周術期治療の一環として取り入れられるようになった。最近では、これまでリンパ節転移を有する病期 III に実施されていた術後補助療法がリンパ節転移を有さない病期 IIB/IIC にも広がったことで、SLNB によって病期 II と病期 III を判別する意義が乏しくなり、今後も SLNB を継続すべきか、といった新たな議論が始まっている。また、皮膚科領域では、有棘細胞癌、乳房外パジェット病、メルケル細胞癌といった非メラノーマ皮膚がんに対しても保険診療の範囲内で広く SLNB が行われているが、必ずしも高いエビデンスレベルに基づいているわけではない。本シンポジウムでは、メラノーマについては周術期治療が発展していく中で今後も SLNB を継続すべきか、非メラノーマ皮膚がんについては最新のエビデンスや実施の意義について、エキスパートの先生方とともに知見を深めたい。

座長：山崎 直也 (国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科)
宇原 久 (札幌医科大学医学部皮膚科学講座)

T5-1 メラノーマのセンチネルリンパ節生検を続けるべきか? 「No」の立場から

新潟県立がんセンター新潟病院 皮膚科
竹之内 辰也

T5-2 メラノーマのセンチネルリンパ節生検を続けるべきか? 「Yes」の立場から

名古屋市立大学 皮膚科
加藤 裕史

T5-3 乳房外パジェット病のセンチネルリンパ節生検における前向き試験の可能性

富山県立中央病院皮膚科
八田 尚人

T5-4 メルケル細胞癌のセンチネルリンパ節生検

札幌医科大学 皮膚科
加藤 潤史

オーガナイザー 高山 伸 (国立がん研究センター中央病院乳腺外科)

企画・趣旨ねらい (概要)

乳癌患者さんにとって、腋窩に対する外科治療に伴う上腕浮腫は大きな負担である。その負担軽減のために開発されたcN0乳癌に対する腋窩センチネルリンパ節生検(SLNB)は、今や標準治療として定着した。

センチネルリンパ節(SN)転移陰性の場合、腋窩郭清は省略させれるが、SN転移陽性の場合、全例に腋窩郭清を追加すべきか、放射線治療をおこなうべきかどうかの検討は続いている。また、cN(+)乳癌の場合は術前化学療法後のセンチネルリンパ節生検に関する研究が盛んであり、ycN0に対するTAS(Tailored axillary surgery)の試みが行われている。

今後は、cN0乳癌に対するSLNB自体を省略する究極の低侵襲治療の可能性や、cN(+)乳癌に対する術前治療無しTASといった腋窩治療のデ・エスカレーションとAxillary reverse mapping(ARM)やLymphaticovenular Anastomosis(LVA)を併用した局所進行乳癌に対する積極的な腋窩治療、腋窩治療のエスカレーションといった幅広い対応が乳腺外科医には求められることになる。

本シンポジウムでは「腋窩リンパ節に対する局所療法のエスカレーションとデ・エスカレーション」について討論したい。

座長：村田 健 (国立がん研究センター中央病院 乳腺外科)
松本 暁子 (帝京大学医学部外科)

T6-1 当院での腋窩マネジメントの変遷と前向き臨床試験について

がん研究会有明病院乳腺外科

中平 詩、井上 有香、前田 哲代、植弘 奈津恵、山下 奈真、片岡 明美、
坂井 威彦、上野 貴之

T6-2 臨床的腋窩リンパ節転移陽性症例に対する腋窩縮小手術の可能性

秋田大学医学部附属病院 乳腺・内分泌外科

寺田 かおり

T6-3 De-escalation 時代における Axillary Reverse Mapping の現状と可能性

さいたま赤十字病院

櫻井 孝志

T6-4 乳癌腋窩リンパ節郭清省略時における放射線治療の考え方

がん研有明病院放射線治療部

原田 亜里咲

[イブニングレクチャー 共催：株式会社ベアーメディック]

T6-5 Super microsurgery による上肢リンパ浮腫治療と予防のアプローチ

富山大学 形成再建外科・美容外科

小野田 聡、都倉 加保里、佐武 利彦

17:00 ~ 17:05 閉会の挨拶

当番世話人：並川 健二郎 (国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科)

第2日目 10月5日(土) 第2会場(セミナールームB)

9:50 ~ 10:30 一般演題3 皮膚科3

座長：緒方 大(国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科)
中村 泰大(埼玉医科大学国際医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科)

O3-1 悪性黒色腫と有棘細胞癌のリンパ節転移病変におけるPET-CT検査結果の解釈

名古屋市立大学 皮膚科

加藤 裕史、尾関 隆宏、中川 裕愛、吉満 眞紀、安井 由希子、加納 慎二、
中村 元樹、森田 明理

O3-2 メルケル細胞癌におけるセンチネルリンパ節生検の有用性

国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科

中野 英司、福田 朱美、松本 薫郎、中山 裕一、鶴田 成二、緒方 大、
並川 健二郎、山崎 直也

O3-3 悪性黒色腫の病型間でのセンチネルリンパ節転移の検討

札幌医科大学皮膚科

松井 馨之、加藤 潤史、堀本 浩平、佐藤 さゆり、肥田 時征、宇原 久

O3-4 当科における悪性黒色腫に対するセンチネルリンパ節生検施行例の検討

¹⁾ 大阪国際がんセンター 腫瘍皮膚科、²⁾ 医誠会国際総合病院 皮膚科

黒神 祐¹⁾、坂本 理佳¹⁾、文 省太¹⁾、荒金 布真¹⁾、大迫 彩乃¹⁾、菊澤 千秋¹⁾、
益田 知可子¹⁾、立花 宏太¹⁾、坂本 幸子¹⁾、爲政 大幾^{1,2)}、大江 秀一¹⁾

O3-5 当院における有棘細胞癌に対するセンチネルリンパ節生検の有用性の検討

¹⁾ 国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科、²⁾ 国立がん研究センター中央病院 病理診断科

松本 薫郎¹⁾、並川 健二郎¹⁾、岸川 さつき²⁾、森 泰昌²⁾、福田 朱美¹⁾、
鶴田 成二¹⁾、中山 裕一¹⁾、中野 英司¹⁾、緒方 大¹⁾、山崎 直也¹⁾

11:00 ~ 11:32 一般演題4 皮膚科4・婦人科

座長：吉川 周佐(静岡県立静岡がんセンター皮膚科)
矢幡 秀昭(九州大学病院 産科婦人科)

O4-1 足底メラノーマセンチネルリンパ節陽性例における即時郭清群と経過観察群における予後比較 - 多機関共同後ろ向き研究

¹⁾ 埼玉医科大学国際医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科、²⁾ 千葉大学皮膚科、

³⁾ 国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科、⁴⁾ 熊本大学皮膚科、⁵⁾ 三重大学皮膚科、⁶⁾ 信州大学皮膚科、

⁷⁾ 札幌医科大学皮膚科、⁸⁾ 兵庫県立がんセンター皮膚科、⁹⁾ 久留米大学皮膚科、¹⁰⁾ 九州大学皮膚科

中村 泰大¹⁾、小泉 滋^{1,2)}、中野 英司³⁾、一期崎 優季⁴⁾、北川 敬之⁵⁾、木庭 幸子⁶⁾、
佐藤 さゆり⁷⁾、高井 利浩⁸⁾、土居 礼一⁹⁾、伊東 孝通¹⁰⁾、山崎 直也³⁾、
並川 健二郎³⁾

04-2 乳房外パジェット病に対するセンチネルリンパ節生検の実施状況と予後について

国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科

緒方 大、和田 昇悟、松本 薫郎、福田 朱美、中山 裕一、鶴田 成二、中野 英司、
並川 健二郎、山崎 直也**04-3 子宮体癌における RI 法によるセンチネルリンパ節同定の検討**

慶應義塾大学 医学部 産婦人科学教室

落合 大輔、坂井 健良、地阪 光代、坂巻 智美、高橋 美央、吉浜 智子、
和田 美智子、千代田 達幸、西尾 浩、山上 亘**04-4 子宮頸癌 I A1 期（断端陰性，リンパ管侵襲陽性）症例に対して妊孕性温存目的の腹腔鏡下 sentinel node navigation surgery を施行した 1 例**

鹿児島大学病院産科婦人科

古園 希、戸上 真一、香西 亜優美、永田 真子、小林 裕介、宮田 康平、
福田 美香、水野 美香、籾詰 伸太郎、小林 裕明

12:20 ~ 13:10 ランチョンセミナー

共催：MSD 株式会社

座長：山崎 直也（国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科）

メラノーマの周術期治療 - 免疫療法と irAE マネジメントの実際 -

新潟県立がんセンター新潟病院 皮膚科

竹之内 辰也

14:00 ~ 14:40 一般演題 5 乳腺外科

座長：北條 隆（埼玉医科大学総合医療センター プレストケア科）

木下 貴之（国立病院機構 東京医療センター乳腺外科）

05-1 Bt での腋窩リンパ節郭清省略における、OSNA 法を用いた転移予測モデルの有用性

大阪大学大学院医学系研究科 乳腺・内分泌外科学

金 敬徳、阿部 かおり、増永 奈苗、三嶋 千恵子、吉波 哲大、塚部 昌美、
草田 義昭、三宅 智博、多根井 智紀、下田 雅史、島津 研三**05-2 病理学的腋窩リンパ節転移陽性 T1a 乳癌の特徴**

慶應義塾大学 一般・消化器外科

関 朋子、横江 隆道、永山 愛子、高橋 麻衣子、林田 哲、北川 雄光

05-3 温存乳房内再発（IBTR）症例に対する再センチネルリンパ節生検の有用性

慶應義塾大学医学部 一般・消化器外科

亀山 友恵、関 朋子、横江 隆道、永山 愛子、高橋 麻衣子、林田 哲、北川 雄光

05-4 cN0/SLN 転移陽性乳癌症例に対する、術前・術中因子のみを用いた高度リンパ節転移陽性予測システムの精度検証¹⁾ 国立がん研究センター中央病院 乳腺外科、²⁾ 国立がん研究センター中央病院 病理診断科村田 健¹⁾、橋口 浩実¹⁾、小川 あゆみ¹⁾、前田 日菜子¹⁾、渡瀬 智佳史¹⁾、
岩本 恵理子¹⁾、吉田 正行²⁾、高山 伸¹⁾

O5-5 乳腺内視鏡下センチネルリンパ節生検の経験

国立がん研究センター東病院 乳腺外科

大西 達也、山本 麻子、遠藤 美美、永澤 慧、山田 美紀、綿貫 瑠璃奈、
山内 稚佐子

15:20 ~ 15:52 一般演題 6 消化器外科

座長：高橋 直人（東京慈恵会医科大学附属柏病院 外科）

平松 良浩（浜松医科大学周術期等生活機能支援学講座／外科学第二講座）

O6-1 超高齢者胃癌に対してSNNSを用いて胃局所切除術おこない長期生存を得ている一例¹⁾ 浜松医科大学 外科学第二講座、²⁾ 浜松医科大学 周術期等生活機能支援学講座松本 知拓¹⁾、坊岡 英祐¹⁾、境井 勇氣¹⁾、羽田 綾馬¹⁾、曾根田 亘¹⁾、村上 智洋¹⁾、
森田 剛文¹⁾、菊池 寛利¹⁾、平松 良浩²⁾、竹内 裕也¹⁾**O6-2 当科における残胃癌治療の後方視的検討**

鹿児島大学 消化器外科

松下 大輔、有上 貴明、佐々木 健、鶴田 祐介、下之蘭 将貴、大塚 隆生

O6-3 進行食道癌完全奏効後の高齢胃癌に対するセンチネルリンパ節生検を伴った腹腔鏡下胃部分切除術の1例

東海大学 消化器外科

金森 浩平、大塚 哲哉、中島 理絵、田島 康平、大宜見 美香、二宮 大和、
庄司 佳晃、數野 暁人、山本 美穂、西 隆之、小柳 和夫**O6-4 センチネルリンパ節生検を指標とした機能温存手術は多病死を抑制する**¹⁾ 金沢医科大学 一般・消化器外科学、²⁾ 金沢大学 消化管外科木南 伸一¹⁾、三ノ宮 優太¹⁾、岡本 浩一¹⁾、稲木 紀幸²⁾、高村 博之¹⁾